特集②

# みんなで力を合わせて、「いい会社」をつくりましょう！

## ― いい会社を構成する７つの基本要素 ―

デライトコンサルティング株式会社　　代表取締役　近藤 圭伸 氏

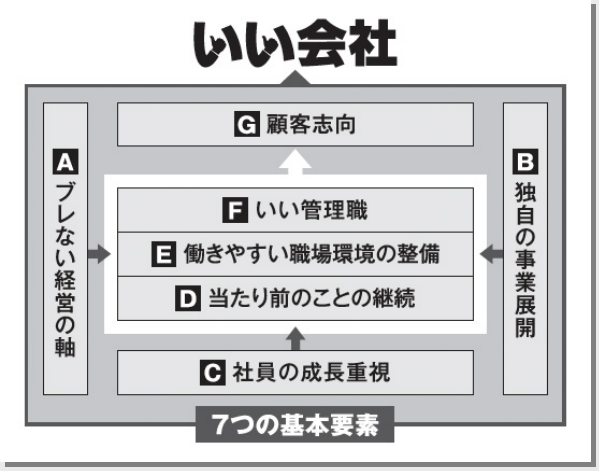
今号では「いい会社」の全体像とそれを構成する「７つの基本要素」について紹介します。全体像を理解すれば、いま自社がどのような状態にあって、「いい会社」づくりにおいてどこから、何を始めていけばいいのかが理解できます。

さて、弊社では「いい会社」と評価されている会社を何社も訪ね、その経営者と社員に直接話を聞き、工場やオフィスの観察を行いました。その結果得られた数多くの個々の事象（会社が実践していること）を、まず項目として定義し、意味合いや方向性を同じくする項目を集約して「７つの基本要素」を導きました。さらに、下記のように「いい会社」の全体像と要素ごとの関連を図のように表しました。

結論をいうと、「いい会社」づくりは、強い「Ｇ顧客志向」をつくるために「Ａ～Ｆ」の質を向上させる取り組みを継続的に実践することといえます。それらは社員を成長させ幸せにする取り組みでもあります。

まず、ＡとＢは「いい会社」を支える２本の屋台骨です。いうまでもなく会社にはブレない経営の軸とビジネスモデルが必要です。Ｃは社員の成長なくして会社の成長はなしという考え方であり、会社経営の土台です。この土台がなければ「Ｄ～Ｆ」には至りません。特に「Ｃ～Ｅ」は「いい組織風土」形成や「いい人材」の定着に大きく関連します。そしていい組織風土が醸成されると「Ｆいい管理職」が自社から生まれます。いい管理職を輩出できるようになった会社は100年企業の扉を開けたといって過言ではありません。いい管理職のもとに社員は結束し、顧客価値の創造を自律的にするようになります。

**図：いい会社の全体像と７つの基本要素**




しかし「Ｃ～Ｅ」は実践してもすぐには利益に結びつきません。また目に見えにくいことから疎かにされがちです。そうなると徐々に会社の体力は衰え、できる社員が会社を去り組織は弱体化してしまいます。このようなことにならないように会社は「Ｃ～Ｅ」にしっかりと目を向け、一定の投資をしたり、地道にコツコツ取り組んでいくことが必要になります。最後に「Ｃ～Ｅ」は衛生要因（それがないと不満に感じるもの）であることにも注目しなければなりません。やはり安心して働けない組織からはいい商品やサービスは生まれてきませんし、人材も育ちません。

次回は各要素を構成する、「いい会社」にするための50の実践項目を紹介します。

**デライトコンサルティング株式会社　　代表取締役　近藤 圭伸**

1989年 株式会社デンソーに入社。その後、監査法人トーマツのコンサルティング部門で、人事・賃金コンサルタントとして、さまざまな業種・規模にわたる企業のコンサルティングを経験。
平成11年に独立し、デライトコンサルティング㈱を設立。現在、管理職・職場リーダーの人事労務管理力開発及び「いい会社」づくりに力を注ぐ。中小企業診断士、社会保険労務士。

著書：『わかりやすい会社規程作成の手引き』（新日本法規出版）　『上司の「人事労務管理力」』（中央経済社）
『管理職・職場リーダーのための人事・労務Q&A』（中央経済社）

Delight Consulting

人事賃金制度の構築・運用支援、人事労務相談の顧問業務を数多く実施しています。また、管理職・職場リーダーの人事労務管理力研修など、上司と部下の信頼関係づくりや組織力向上のための研修を行っています。　www.delight-c.com